史料館の歩み 50年

国文学研究資料館

史　料　館

序

史料館が創立五十周年を迎えることになった。史料保存機関としての文部省史料館時代が約二十年、研究組織に改変された国文学研究資料館史料館となって約三十年である。

この半世紀にわたって史料館の果たしてきた事業の概要を知っていただき、二十一世紀に果たすべき社会的な役割の大きさについて広く認識していただくために、この冊子を刊行することにした。ただし、四十周年記念冊子を継承する編集方針をとっているので、この十年に中心を置いた感想を一言する。

組織の問題として史料館長が久しぶりに復活、専任されたことを特筆しておきたい。森安彦教授、次いで高木俊輔教授が就任し、極めて統制がとれ、且つ活発な活動が展開されるようになったのが印象的であった。基本の、史料・史料情報の整理、研究、保存・修復、公刊の着実な積み重ねは無論のことながら、この期に入って、史料管理学の共同研究、情報システム化は目ざましく進展した。また、科学研究費助成による海外所在史料の調査と研究に積極的に取り組み、海外研修にも活溌に機会を作って国際的な研究交流にも大きな成果を上げ始めている。

更に特記すべきは史料管理学研修会の継続的開催が、全国の文書館・図書館の現場で活動している人々の強い支持を得ていることである。記録史料全般の整理・保存・利用に関しての、幅広く懇切なカリキュラムが、現場の諸問題に即しての真に有用なものになっているからであろう。教官個々の努力もさることながら、史料館長の統括のよろしきを得た故の多岐な成果、と評してよいであろう。

大学共同利用機関の目下の最大の問題は、独立行政法人化と国立大学改革に連動する機関統合化の動きである。国文学研究資料館もその付置研究機関である史料館も無論その動きを免れることはできない。また、当館は立川移転、総合研究大学院大学への参加（博士課程設置）の問題も目前に迫っている。

大きな変動期であるが、日本文化資源の基盤である書籍（国文研）・記録史料（史料館）を百年の長期展望に立って整理・研究することを通じて、世界中の日本学研究者に寄与する姿勢を相携えて堅持し、発展させ、ジャパン・アーカイブズの研究所像を実現して行きたいと念じている。

平成十三年十一月

国文学研究資料館長

松　野　陽　一

刊行にあたって

史料館は、2001（平成13）年５月に満50年を迎えました。この50年という節目にあたり、『史料館の歩み50年』を出版することにしました。

史料館は、すでに1991（平成３）年に『史料館の歩み四十年』を刊行しています。その後の10年間は、史料館長職の復活に始まり、立川移転問題の再燃、国文学研究資料館の改組問題、館内業務と研究情報分野の電子化などの波を受けるなど、いくつかの変化を経てきています。また独立行政法人化問題に直面しつつある現在、史料館の将来像をさらに模索していく必要があります。そのために、この10年間を改めてふり返り、自己点検の書としてまとめておくことにしたのです。

ご承知のように史料館は、戦後の混乱の中で散逸の危機にさらされていた近世を主とした文書の収集と保存を図る目的で1951（昭和26）年に設立されまして、現在では収集の数は約400件、50万点以上となり、近世・近代文書の収蔵量としては日本一の規模となっています。1960年代以降は史料の現地保存主義の立場から、現物史料の収集でなく主として日本各地に残存する史料の情報を集積する方向に転換し、史料に関する研究面を強め、史料の公開・利用の道を開く方向を進めてきました。

現在の史料館は、第１に近世・近代文書を調査・収集・整理し、研究者や一般利用者に提供するという文書館機能、第２にアーカイブズ（記録史料と文書館の両者の内容を持つ）に関する研究・教育機能（とくに史料管理学研修会の実施）、第３に近世・近代の史料所在情報を収集してデータベースのさらなる蓄積と公開を進めるアーカイブズ情報センター機能、など３機能の充実・発展を目指しています。

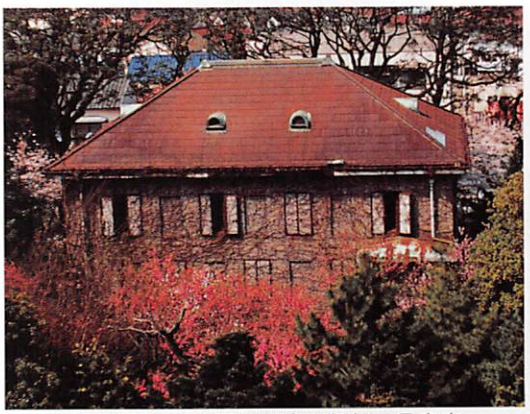
さて本書は、次のような構成をとりました。まず編集方針として、史料館の創設から40周年に至るまでの歴史については『史料館の歩み四十年』（以下では、『40年誌』と略記します）に詳しいので簡略化し、ここ10年間の歩みを中心に執筆することとしました。そのためデータなどもここ10年間のものにしぼっていますので、それ以前については『40年誌』をご参照下さい。構成については５章立てとし、Ⅰで「史料館の歩みと21世紀の展望」として通観的な記述を行い、Ⅱの「史料館の研究に関わって」では、史料館の研究活動の様々な局面に関わっていただいた方々から御寄稿をいただきました。またⅢ「データで見る10年の歩み」では、ここ10年間の史料館の研究・事業活動をデータでふり返っていただけるようにまとめてあります。さらにⅣ「史料館と史料保存運動の歩み」年表、Ⅴ「参考資料」を掲載して、より詳細な情報の提供に努めました。本書を通じて史料館の活動に理解を深めていただければ幸いです。

さいごにあたり、多くの方々にご寄稿頂きましたことに厚くお礼を申し上げます。

2001（平成13）年９月

史料館長　高　木　俊　輔

2001年秋　史料館の収蔵庫・閲覧室（北館）

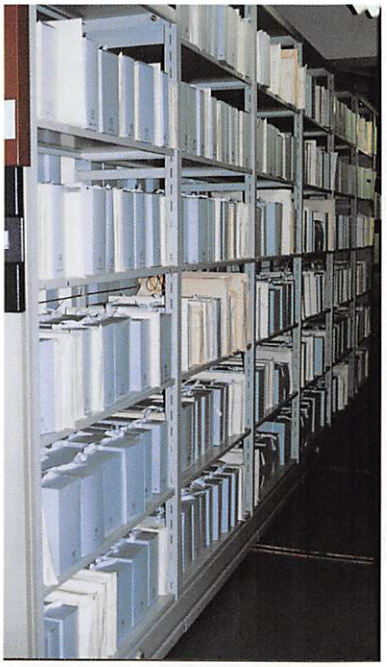


1991年蔦のからまる旧文部省史料館１号書庫

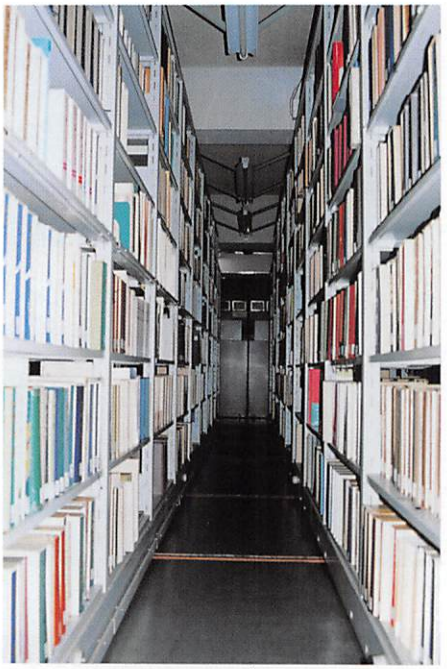
2000年に改修された１号書庫の現在

北館１階収蔵庫

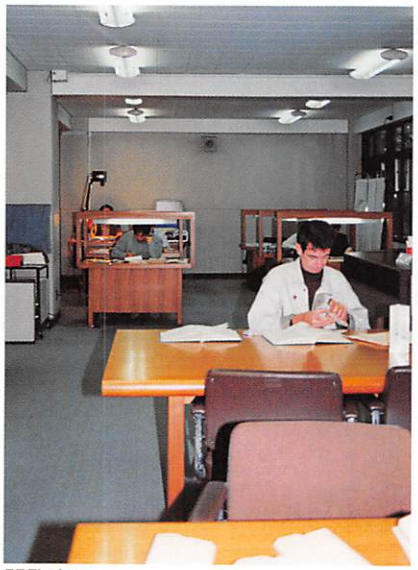
冬景色の国文学研究資料館　1993年



地下収蔵庫
中性紙製帙に
収納された
愛知県庁文書



各県の地域史文献



閲覧室

地下収蔵庫
固定書架に配架された
史料群

2001年11月
史料館の現職員

2001年　史料管理学研修会　安藤正人教授講義
「現代の文書館とアーキビストの役割」

2001年　史料管理学研修会
高木俊輔館長講義「史料管理学とは何か」

2001年　史料管理学研修会　劣化損傷史料の修復　講義風景

史料の整理　目録作成の実習の様子

研修会の施設見学　藤沢市文書館において　1995年

1999年 9 月
長野県中野市山田家の
所在調査

島根県立図書館
における
現状記録写真撮影

山田家文庫蔵での調査

高山市郷土館での文書の保存容器計測

1995年からたびたび「日本史料の所在と現状に関する調査」で訪れたパブリック・レコード・オフィス

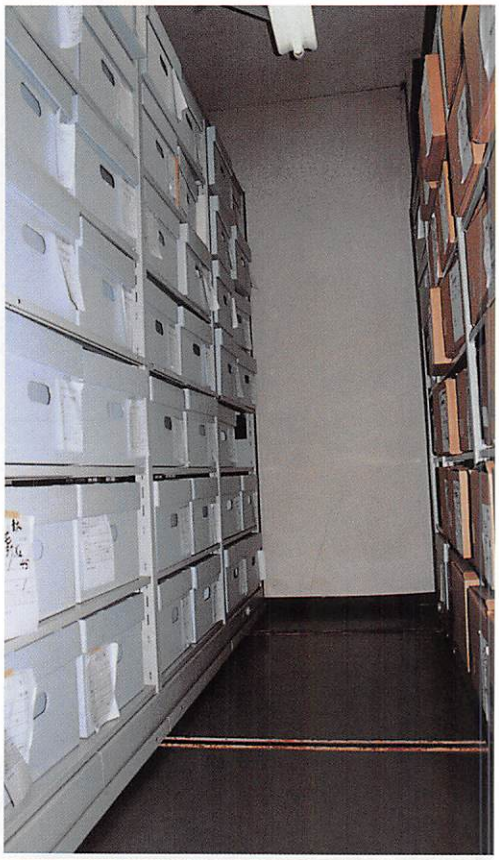
1988年９月　ドイツ　マールブルグ文書館学校における
学生との交流風景

日本の文書館制度について話す安藤

文書館学校の学生募集ポスター

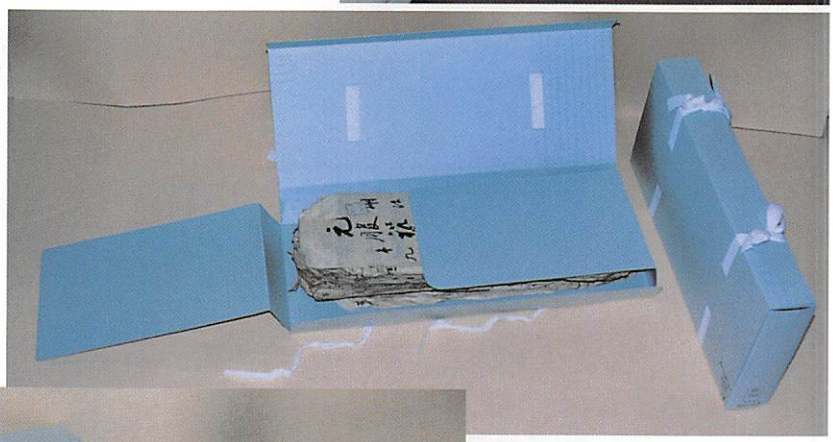
1996年11月　ビクトリア＆アルバート美術館における
「パークス和紙コレクション」の調査」

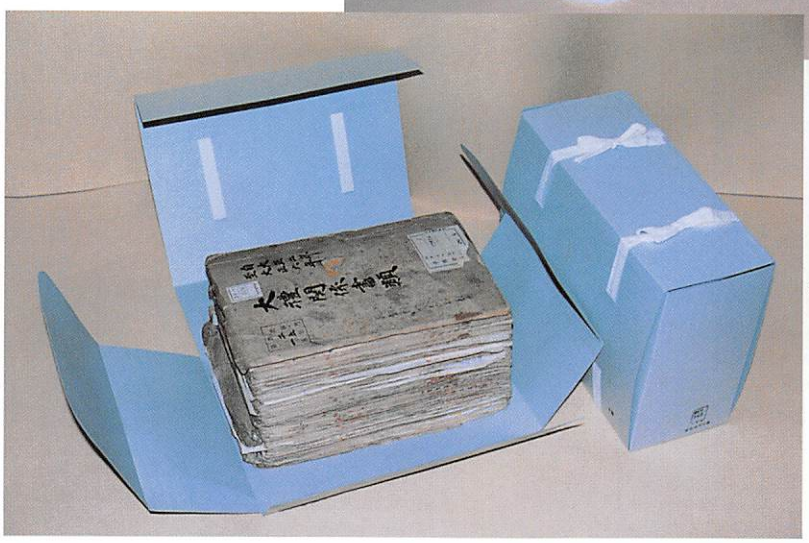
1991年　未措置の状態の史料



保存箱に収納された
史料

横帳用
定型帙





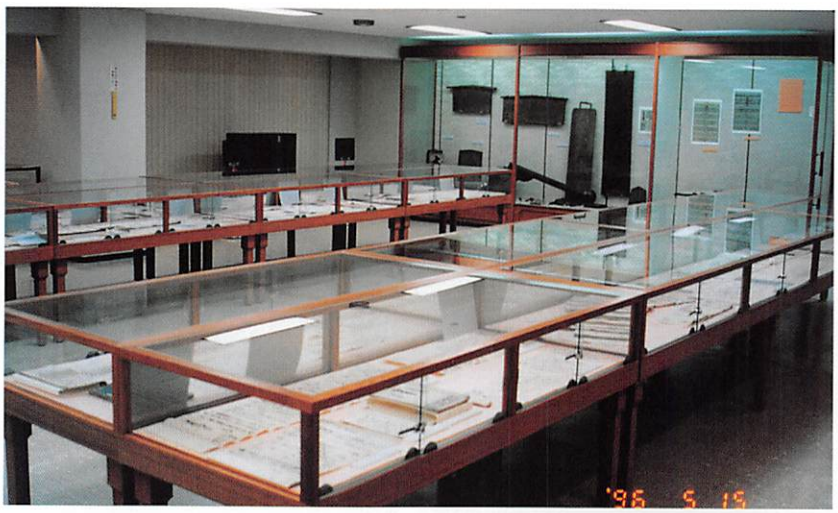
縦帳用
定型帙

1995年１月30日
「記録史料の情報資源化と
史料管理学の体系化に関する
研究」準備研究会

1993年１月
評議員網野善彦先生を
招いた館内研究会
題名
「文献資料学の課題」

1994年　当館の大会議室で開催した
「記録史料の保存と修復に関する研究集会」
災害から記録史料を守る－世界からの報告－を
テーマとして海外のアーキビストと研究協議を
行った

史料所在情報の基礎となる史料目録類配架書庫(左)と
採録したデータシート収納ファイル群(右)



1996年５月13日～24日に開催した「近世文字社会のひろがり－史料館収蔵史料展」
５月17日の講演会当日のギャラリートークに詰めかけた見学の皆さん
会場は動きがとれないほどの混雑となった

目　次

序
刊行にあたって
写真に見る50年の活動

Ⅰ　史料館の歩みと21世紀の展望 …… 1
1．史料館の設立・改組と展望 …… 3
1．1　40年の概要 …… 3
1．2　10年の歩み …… 8
2．研究事業活動 …… 15
2．1　40年の概要 …… 15
2．2　10年の研究活動と展望 …… 20
史料管理学研究 …… 20
史料学研究 …… 39
記録史料所在情報の収集と公開 …… 46
情報システム化の現状と課題 …… 53
史料の保存と修復 …… 64
2．3　10年の教育・研修活動と展望 …… 76
2．4　10年の国際研究活動と展望 …… 87
国際学術研究 …… 87
海外研修 …… 92
2．5　10年の公開・利用サービス活動と展望 …… 101
3．まとめにかえて－21世紀の史料館像－ …… 108

Ⅱ　史料館での研究に関わって …… 113
史料館での研究に関わって …… 大藤　修 …… 115
史料館での研究に関わって …… 戸島　昭 …… 116
保存の理念から実際まで …… 稲葉政満 …… 117
史料館のおもいで …… 馬淵久夫 …… 118
史料館の思い出 …… フィリップ・C・ブラウン …… 119
「在英日本史料の所在と現状に関する調査」研究に参加して …… 神立孝一 …… 120
史料館での研究に関わって …… 石原一則 …… 121
国立史料館時代と高山史料調査 …… 冨善一敏 …… 122

Ⅲ　データで見る10年の歩み …… 125
1．史料の収集 …… 127
2．史料所在調査先一覧 …… 128

3．史料の保存と修復 …… 129
4．史料と図書の閲覧利用サービス …… 131
5．史料管理学研修会の開催 …… 132
（1）史料管理学研修会開催一覧 …… 132
（2）史料館理学研修会レポート一覧 …… 133
6．刊行物一覧 …… 151
7．史料展示会一覧 …… 158
8．歴代評議員一覧 …… 159
9．歴代運営協議員一覧 …… 159
10．歴代史料館員一覧（付：2001年4月現在職員一覧）…… 160

Ⅳ 「史料館と史料保存運動の歩み」年表 …… 163

Ⅴ 参考資料 …… 177
1．法規関係 …… 179
大学共同利用機関組織運営規則（抄）…… 179
大学共同利用機関の内部組織に関する訓令（抄）…… 181
国文学研究資料館組織規程（抄）…… 182
国文学研究資料館特別共同利用研究員規程（抄）…… 182
国文学研究資料館資料利用規程（抄）…… 183
国文学研究資料館史料館資料利用規程 …… 185
2．独立行政法人・移転・組織改正関係 …… 190
史料の保存からみた史料館の新営計画研究報告書（抄）…… 190
国文学研究資料館外部評価委員会報告書（抄）…… 193
独立行政法人化問題についての考え方（史料館教官一同）…… 195
要望書（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会）…… 196
国文学研究資料館史料館の運営・組織の改変に関する要望書
（歴史学研究会）…… 197
要望書（地方史研究協議会）…… 197
国文学研究資料館再編に伴う要望書
（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）…… 198
史料館の組織改変問題について（現状の説明とお願い）
（史料館教官一同）…… 199
国文学研究資料館組織改組の概要について（中間のまとめ）（抄）…… 202

あとがき

史料館の歩み五十年

2001年（平成13）年11月30日 発行

編集兼発行者　　国文学研究資料館史料館
〒142-8585　東京都品川区豊町１－16－10
Tel　03－3785－7131

印　刷　所　　株式会社　三協社
〒164-0011　東京都中野区中央４－８－９
Tel　03－3383－7281